1　乾乳期　～ ここでの管理が次乳期の乾物摂取量を左右する重要な期間!! ～

(1)乾乳期とは

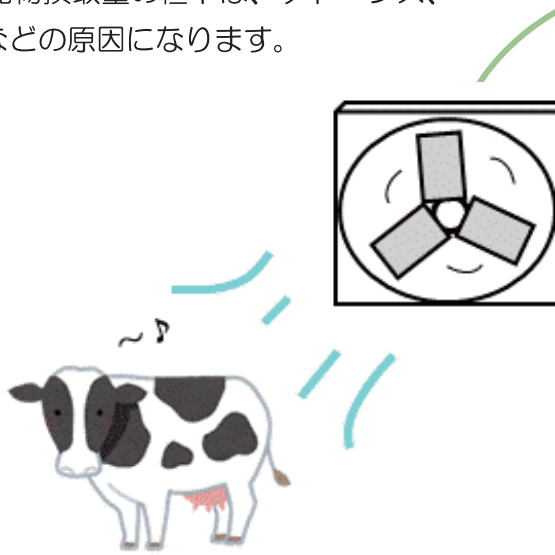
乾乳期は、生理的に乾物摂取量（DMI）が低下しやすくなる時期で、ストレスで乾物摂取量を低下させない管理が大切です。また、次の分娩や泌乳に向けての大事な準備期間です。

分娩前後は免疫力の低下しやすい時期でもあります。この時期の乾物摂取量の低下は、ケトーシス、脂肪肝、低カルシウム血症（乳熱）を始めとする周産期疾病の発症などの原因になります。

(2)特に後期の乾物摂取量の低下を防ぐ!!

乾乳後期（分娩前３週間程度）は胎児が急激に成長し、ルーメンを圧迫することにより乾物摂取量が低下しやすくなります。

ですから牛が自由に採食できるようにしなければなりません。



十分な換気で常に新鮮な空気を

(3)分娩場所へ移動するときの乾物摂取量を低下させないポイント

分娩房へ移動する場合は次のことに注意しましょう

①クリーン＆ドライ

②敷料をタップリと敷く（滑らない）

③仲間が見える場所が望ましい

④分娩房への移動は分娩の兆候が見えてから

(4)繋ぎ牛舎での乾乳の管理方法

繋ぎ牛舎では乾乳牛で場所を固めて管理する方法もあります。（図１）

また、群分けが難しい場合は、隣の牛に盗食されない管理や工夫が必要です(事例３)。

繋留飼養の場合は、ニューヨークタイストールなどの比較的自由度の高い繋留方法で、尿溝にはスノコなどを置き、敷料をタップリ入れましょう。

また、他の牛舎から移動する場合は、遅くても分娩２週間前には移動しましょう。

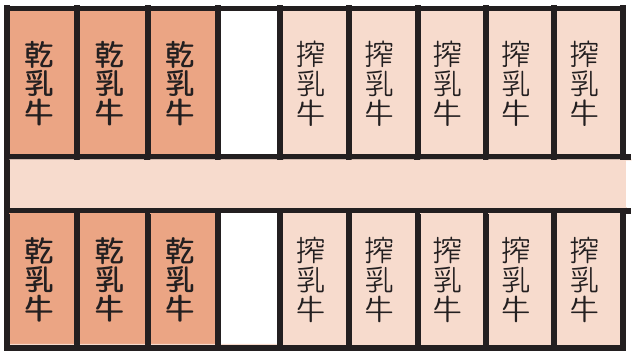


図１　つなぎ牛舎での乾乳牛の配置レイアウト(例)

★他の牛と競合しないポイント

- 弱い牛が逃げられるように行き止まりのない工夫が必要
- 経産乾乳牛と初妊牛が競合しない群分けおよびスペースの確保

(5)乾乳期の乾物摂取量を低下させないための管理のポイント

乾物摂取量を低下させないために、できるだけストレスを与えない管理が重要になります。

十分な休息スペース＆たっぷり敷料

★牛舎内環境のストレスを与えないポイント

- 乾乳前期と乾乳後期の群分け
- 十分な休息スペース

フリーバーンなら

乾乳前期 10～12 ㎡/頭

乾乳後期 12～14 ㎡/頭

（採食スペースは含まない）

フリーストールなら

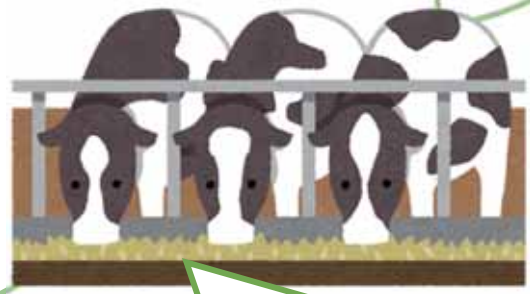
乾乳前期は収容頭数以上にしない（過密にしない）

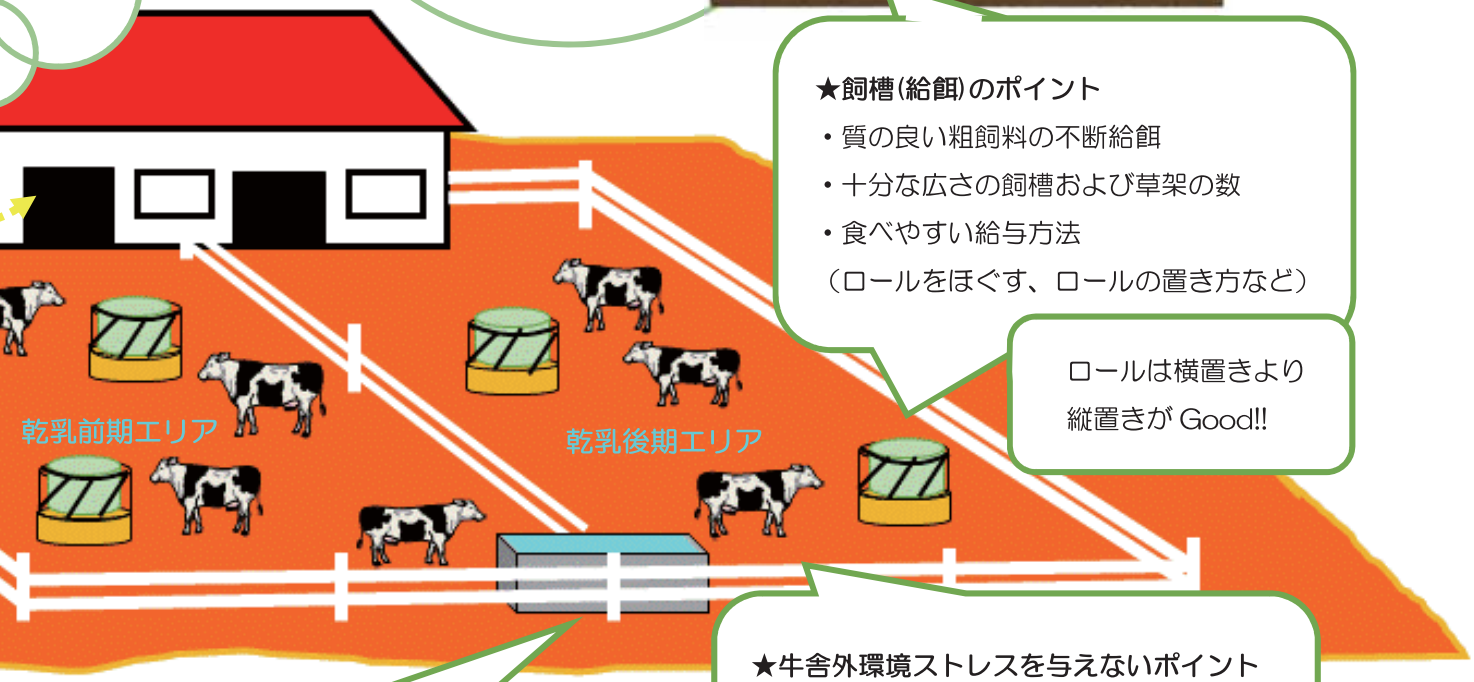
乾乳後期は収容頭数を牛床数の８割以下にする

- 敷料タップリ!!

（滑らない、踏ん張りがきく、衛生的）

- 十分な換気（暑熱ストレスにも効果あり）





★飼槽(給餌)のポイント

- 質の良い粗飼料の不断給餌
- 十分な広さの飼槽および草架の数
- 食べやすい給与方法

（ロールをほぐす、ロールの置き方など）

ロールは横置きより縦置きが Good!!

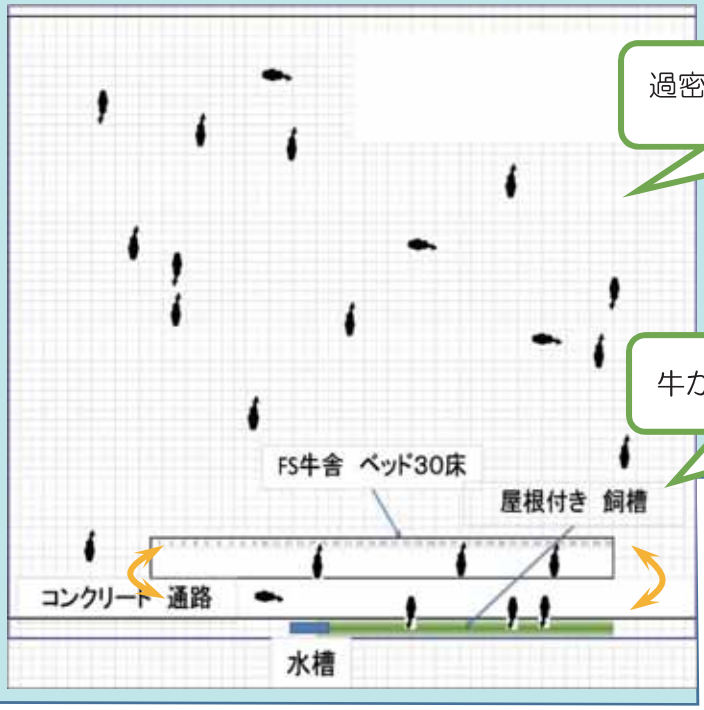
★牛舎外環境ストレスを与えないポイント

- 広い場所での適度な運動
- ぬかるみがない
- 土を踏ませる（コンクリートからの解放）

★水槽のポイント

- きれいで、いつでも十分に飲める水があること

乾乳事例①　A 牧場　フリーストールとパドックを組み合わせた乾乳舎



過密にならない十分なスペース

屋根付き飼槽
・十分な飼槽幅の確保

牛が通り抜け出来るレイアウト

冬もパドックに出している

乾乳事例②　B 牧場

フリーバーンと分娩房、パドックを組み合わせた乾乳舎
（飼養頭数は 10 頭程度）

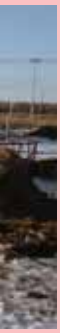
手前から分娩、後期、前期の
休息スペース
（牛床マット＋敷料）

乾乳事例③　C 牧場　つなぎ牛舎での乾乳管理

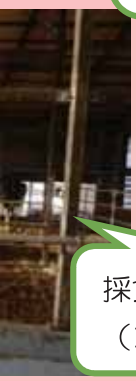
★ハイパー盗食防止板★
- 単管バリケードと板を使用
- 材料費 3000 円程度
- 盗食防止板の奥に乾乳を固めてつないでいる

※乾乳牛が搾乳牛の TMR を食べないようにするのが
目的なので、真ん中より搾乳牛側に設置

広々としたパドック



分娩房
・十分なスペース
・敷料たっぷり



採食スペース
（コンクリート）

前方へのズレを
防止する金具

乾乳・産褥牛の後ろには
スノコを設置